

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 24 年 10 月 14 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3493600039		
法人名	特定非営利活動法人		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ケアホーム匠（あやめ）		
所在地	731-0521 安芸高田市吉田町常友486番地 (電話) 0826-47-1013		
自己評価作成日	平成24年9月15日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=3493600039-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成24年10月4日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・できる限り毎日、利用者の人と買い物に出かけるようにしている。・毎月の行事に加えて「匠の4大行事」として花見・夏祭り・家族会・八朔狩りをしている。・地域の小学校の下校の見守りを利用者の人と一緒にしている。・因島で八朔を作っており収穫までの手入れを行ける利用者の人と一緒にしている。・12月には八朔狩りへ全員の利用者、家族、地域の人、地域の子どもと一緒にしている。・自治会にも入会させてもらい回覧板も回している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>国道54号線と可愛川に囲まれた田園地帯に位置し、周りは広い稲田の中に立地していて閑静な環境下にある。市の中心である安芸吉田町の街中に車で5分の距離である。2ユニットのグループホームと小規模多機能の利用者・職員はロビーを挟んで、自由に交流できる通所・在宅・宿泊と365日24時間、気持ちに寄り添い向き合うサービスを実施している。地域自治体とも行事・催し物に限らず日常の交流は心通い合うものになっている。小学生の下校時信号のない国道交差点での見守りを職員と利用者で毎日行っている事と因島の農園で八朔の手入れや収穫時に利用者・家族・地域住民・子供・市町関係者等総出で楽しみ交流している事とホーム長が市と連携し各所へ認知症アドバイザー・市民総ヘルパー構想に積極的協力をしている等以上3点が特に優れている。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所の理念はみんなで作った、誰でも集えるホーム・その人らしさを大切に・明るい笑顔と挨拶で、毎朝の朝礼の後にはみんなで唱和して取り組むようにはしているが実践には認知症の研修の中で全員が介護理念の再考に取り組んでおり理念に照らして目標を立てて実践につなげている。	掲示されている理念は職員全員で作って毎朝唱和されて身に着いている。その理念を基に職員各人が年間目標を立て、生きた実践になっているかどうかの自己評価を為し、「その人らしさを大切に、明るい笑顔と挨拶で」の理念が空文化しない生きた実践になっている。「振り返り・反省」の大切さが生かされている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の人に呼びかけて行事へ参加してもらったり地域の小学校の運動会へ応援に行ったり下校時の見守りをしたりと少しずつ地域とのつながりが増えてきているのでこれからも日常的に交流出来るように地域に出たり来てもらったりしながら交流を深めていきたい。	事業所指定を受けて5年、地道に地域に溶け込んで地域に無くてはならない存在となっている。地域の行事に参加し、事業所行事に参加して貰う公的な交流以外にも利用者と買物に出掛ける・下校時の見守り等全職員が誠心誠意行動されている様子は地域の方々にともしっかりと認識されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の人に活かせるように介護教室などをして取り組んでいきたいという思いはあるがまだ実践できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議で報告や話し合いをして忌憚のない意見を聞かせてもらいサービスの向上に活かせるように職員が順番に会議に出席するようにして直接意見等が聞けるようにしており、他の職員にも報告したり会議の資料を見るようにしている。	会議に職員が順番に出席するばかりでなく、市町の担当者も入れ替わり出席する会議が2か月毎に開催され、意見交換も遠慮のない雰囲気が会議の重要性を高めており、出席者に大きな意義づけとなっている。投書箱が不要な意見交換がなされ、改善が確実に実現されれば、会議の意義が更に高まる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町担当者とは運営推進会議に出席してもらったり連絡を取り合っており、わからない事等はアドバイスを受けながら取り組んでいる。	運営推進会議に出席する以外にもいろいろな形で連絡する機会がある。ホーム長が市のアドバイザーや講師であることで連携が一層深くなっている。利用者や家族の実態から市担当者も生の情報を得て、施策に生かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関の自動ドアは外からは開くが中からはスイッチを押さなければ開かないようになっているため自由に出入りすることが出来ない。出たい人にはすぐに出来るように開けて見守ったり一緒に出たりはしている。時々鍵をかけない日もあるので鍵をかけない日を増やして行きたい。</p>	<p>利用者の安全を担保する上に必要なことは、拘束にはならないので、玄関を出入りして見て外来者に違和感はなく利用者は守られている。テラスに出て外気や日光浴も充分にできる建物のしつらえが気楽に安心して伸び伸びとした生活ができるように設計されている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>内部研修の機会が少ないので再々学ぶ機会を持って、事業所内でも職員同士で注意ができるような雰囲気を持って虐待が見過ごされることのないようにしたい。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>学ぶ機会が少ないので内部研修をしてしっかり学び活用できるようにしたい。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>十分な説明をするようにしているが一回では理解できないことも多いのでわからない事や疑問な事はいつでも遠慮なく聞いてもらうように話しをしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>玄関へ意見箱を設けたり毎月の匠たよりを送る時に忌憚のない意見が聞けるように意見や要望等が書ける用紙と一緒に送っている。家族会でも意見や要望を聞いたり各担当者が家族と連絡を取り合うようにしている。</p>	<p>年1回の家族会と2か月毎の運営推進会議が公的な会議としてある以外に家族の来訪時には時間を取って対応し、相談を受け、相互の情報交換をしていて密接に交流している。利用者担当職員の日常得ている情報も家族に良く伝わっている様に窺える。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1～2回の職員会議で意見を出し合い運営に向けている。	常勤、非常勤関係なく職員として気付いた事、考えたことは日常的に話され、提案されている。利用者に役立ち、利用者を見守り、家族に安心して貰える動き、取組みは全て職員全体のものとなっていないが、その為の工夫は小さなことでも遠慮なく皆の前に出し合える環境作りを今後も続けて欲しい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則、給与規定、等級管理規定等の周知徹底を行っている。 職場環境については職員会議において要望を聞き、参加者で話し合い就業規則に盛り込むようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修委員により外部、内部研修と個人のスキルアップに合わせた方向性はあるが人材育成の面での研修の体系化もこれから取り組む課題である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他施設との交流は職員が持てるようにしている。ネットワーク作りまでは出来ていないのが現状。今後ネットワークづくりをしていきたい。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用を開始する時にはしっかりと話を聞くようにして安心して利用ができるように努めており、わからないことがあればいつでも遠慮なく聞いてもらうように話をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	不安なことや要望等は必ず聞くようにしており、計画作成担当者や本人の担当者と顔を合わせて話しをしたり、いつでも遠慮なく聞いてもらえるように話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームへ入居しなければいけない状態なのか、他なサービスを使えば自宅でも生活が可能なのか等をしっかり聞いて、いろいろなサービスを伝えながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	洗濯物をたたんだり、料理の下ごしらえや配膳等出来ることは自分でしてもらったり一緒にしながら共に笑ったり泣いたりしながら生活を共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時にはなるべくゆっくりと話しができるようにお茶等を出して自室や過ごしやすい所で過ごしてもらえるように配慮したり日常の状態や受診の都度報告をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人が面会に来られたらお茶等を出してゆっくりと話しができるようにしたり、行きたい所を聞いたり墓参りに行ける所へは家族に聞いて連れて行ってあげている。	利用者が懐かしい場所へ出掛けて行くことを考え、実施している事は職員の新たな工夫の居る事と思えるが続けて欲しい。利用者の嬉しそうな顔は職員の日常の掛替えのない喜びとなっている。墓参りなどは、もう数年前から実施している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりが孤立しないようにみんなで集えるようにはしているが、認知症が進行して利用者同士のコミュニケーションや支え合えることは難しくなっているのが現状。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されても時々は面会に行ったり連絡を取って家族の相談等の支援をしている。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を活用してどうしたいか、話しをして気持ちや思いを知ることができる。お茶や食事の時にも何気ない会話の中から思いを聞けることがある。誕生日にも食べたい物や行きたい所、したい事等を聞いて叶えてあげるようにしている。	日常の利用者との会話の中で本人の気持ち、思いを丁寧にアプローチしており、本人本位の対応に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の時に聞いたり、センター方式の記入の時に本人や家族に聞いて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックをして体調の変化を把握しながら、できることしたいことを聞いて一人ひとりの過ごし方を決めるようにはしているが、聞いても返事がない人には、職員が利用者の気持を推し量って対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>面会時に家族に介護計画についての希望や現状を話したり、できる時には家族、担当者、計画作成担当者等で計画についてのカンファレンスをしている。</p>	<p>利用者の担当職員と介護支援専門員が共にモニタリングを行い、利用者及び家族の意向を参考にしつつ、利用者の心身の状況や変化に即応した介護計画を作成し、ケアに努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日勤帯、夜勤帯ともにケア記録に記入したり、各担当者が気づきを記入して見直しに活かしたりカンファレンスで情報を共有したり介護計画を把握しやすいようにファイルして全員が確認出来るようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>サービスの多機能化と言えるのか、併設している小規模多機能型居宅へは自由に行き来して落ち着ける場所で過ごしてもらえるようにしており制限はしていない。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>小学校の運動会へ応援に行ったり下校時の見守りを職員と一緒にしたりしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけの病院へは定期受診をしたりそれ以外にも体調に合わせて受診をしたり往診に来てもらったりしながら、状態によっては家族の希望を聞きながらかかりつけ医を変えて納得のいく医療が受けられるようにしている。受診の際に報告しておかなければいけない事は必ず家族へ報告するようにしている。</p>	<p>利用者や家族が希望するかかりつけ医への受診に同行したり、家族に代わって通院介助も行っている。その際、医師との会話や診断結果、薬についての説明等の医療情報は詳細に家族と共有し、早めの受診等適切な医療支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	毎週1回は訪問看護を受けており、日々の気づきや相談はその都度看護師へ相談したり訪問看護師にも報告や相談をして心配のないようにアドバイスをもらったり早めに受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には再々面会に行き、聞ける時には状態を聞いて帰ったり、退院に向けては情報を得るようにしており退院後も疑問な事は病棟へ聞くようにしている。協力病院とは一緒に情報提供用紙を見直しており認知症の人に対してもわかりやすい対応の仕方を記入出来るように見直しをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の方針を示して家族に同意を得ている。終末期については看取りのマニュアルに従い、家族に意向などを聞いて希望にそえるようにしたい。また、かかりつけ医の見直しをして夜間も含めて医療連携がとれるようにしていきたい。	看取りのマニュアルが作成されており、現実に重度化が進んで終末期の介護になった事例で、亡くなられた方の家族共々心の籠った看取りがなされ、事業所チームの見識が示されたものである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	初期対応の訓練はできていないので早いうちに訓練をして全職員が不安なく対応できるようにしていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に火災時の避難訓練はしているが災害時の訓練はできていないのでマニュアルを作り地域の人にどこのところを協力してもらえばいいのか具体策を入れる。地域の協力が得られるように訓練に参加してもらえよう取り組みをしていきたい。	周囲が水田で囲まれているので、火災時の対応は各室から直接外へ出られるので比較的易しい。2ユニットと多機能の職員の3名で避難誘導できるのも有利な点である。水害の恐れがあるそうので対策計画が実現されるのを待つ間、市町に期待する他に妙手はない。自主防災組織はつくってある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を尊重するようにして、きつい言い方や大きな声で対応する事のないように、全職員が振り返りをして自分ならどうかということを考えながら対応している。	プライバシーに配慮はされている。廊下のカーテンも入浴介助時に使用している。トイレは各室にある。排泄介助時の言葉掛けなど職員会議で協議し共通する介助にしようとしている。見直しをして誰がやっても同じ態度で支援する共通事項を纏めようとしている。幼児語で話し掛けたりはしていない。	介助の共通化は受ける利用者の戸惑いや迷いがなく安心して事を進めることができる大切な事なのでいつでも誰がやっても同じ手順で進み、言葉掛けもほとんど同じというのは家族でも同じ様に接してもらえようには文章化してマニュアル集にまとめられることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	横になりたいかホールに居たいかどこで過ごしたいのか等を聞いたり飲み物は何か飲みたいか希望を聞いたりして思いが叶うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人のペースを大切にしているが、どのように過したいか聞いても希望が聞けないことが多いので職員側から散歩に行きますか？などと聞くと意思表示されることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	日常からなるべくおしゃれな洋服を着てもらえるように選んで本人へすすめる時がある。衣服を一緒に買いに行く時は自分で選んでもらう時もある。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者と職員が同じ時間に同じ食事を一緒に話しをしながら食べている。食事の準備や片付けをしたい人、できる人が無理のない程度でしている。	献立は良く考えられている昼食を皆さんと一緒に食べたが、柔らかく彩良い配慮で楽しい食事であった。利用者の一部も調理したり、配膳したり、後片付けをしたりされる。利用者が世話をした裏の菜園からの収穫物も調理される。家族の持ち込みもあってバライティに富んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量が少ない人や水分摂取量が少ない人はチェックシートに記入するようにしている。いろいろな飲み物を工夫をして摂れる物を時間を気にしないであげるようにしている。水分にむせて飲み込みの悪い人にはトロミをつけてあげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケアは毎食後にしており，10時にはインジン液でうがいをしたり昼食後は義歯のポリデントをしている。その人の状態に応じて自分でしたり見守りをしたり介助をしたりしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄パターンをつかむようにチェックシートをつけてパターンはつかむようにしている。立ち上がりが出来ない人もトイレで排泄できる人は2人対応でトイレへ介助している。	トイレは各室にあるので排泄パターンの表が無いと失敗があっても判り難い。各人の表に従い声掛け、誘導がなされている。この機会を借りて歩行練習や着衣の着脱やバランスを取る等身体状況を健全にする取り組みも行われている。オムツを出来るだけ避けてパットを使用するよう心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェックをしてかかりつけ医や訪問看護師に相談しながら指示をもらったりお茶の時間にはプルーン等を食べてもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	聞いて決定できる人にはその人のタイミングや希望に合わせて午前、午後、夜間入浴ができるようにしているが決定ができない人や入浴が嫌いな人にも、諸々考慮の上、入浴を促している。	利用者の希望に沿って午前から夜間に掛けて個浴を楽しむことができる。希望を表さない方は職員の方で誘って入浴している。着衣の脱着の順序をマニュアルがあるとどの職員の支援も順序が変わらなければ利用者も迷わない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調や生活習慣に合わせてベットやソファで休んでもらって生活のリズムをつけながら生活している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の内用が変わったらその都度情報が伝わるように記録を見て確認ができるように連絡帳に記入して記録や薬説明書を見るようにしている。誤薬や飲み忘れ等がないように薬を分別する袋に印をしたり服用支援をした人がチェックする用紙を作っている。症状の変化には気をつけて記録や申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や力を活かした支援は全員にはできていないので役割や楽しみごとを見直して喜びのある笑顔が沢山見られるような支援をしていきたい。その人のしたい楽しみごとをしてもらったりや気分転換にはテラスで日光浴をしたり買い物やドライブに出かけるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	毎日、人を変えて買い物へ行ったりドライブへも行っている。因島への八朔狩りは行ける人は手入れの時も一緒に行ったり、収穫の時には全員と家族や地域の地域の子ども等に声をかけて一緒に因島へ行っている。	献立に必要な食品の購入に職員と一緒に交代で街中のマーケットに出掛ける。店内は広いので要領よく回らないと時間は掛る。不定期では懐しい処へドライブする。年単位では地域行事に参加する。因島へは八朔の手入れや収穫に行く。この時は家族・地域の住人・市町関係者が同行する。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	おこづかいは預かっているが本人が使えるような支援ができていないので一緒に買い物に出かけた時には自分で支払えるようにしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話や手紙を書く希望の人はいないが、職員の働きかけができていないこともあるので一人ひとりに聞いて支援していきたい。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	なるべく季節の花を飾ったり、月毎に季節が感じられるような絵画や貼り絵を飾ったりしている。音楽をかけたり換気には気をつけている。	2ユニットの中央にあるテラスは小規模多機能の方も一緒に外気に当たりながら自由に過ごせ、お茶もできる。ブドウの世話をする方もいる。ロビーのソファで寛ぐこともできる。外に出て稲田の間や用水路に沿って散歩も楽しめる。菜園の世話をしてもよし歌を歌ってもよし、ロビーで折り紙を楽しんだり自在にしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ホールで利用者同士で過ごしたり建物の中を自由に移動して落ち着く所で過ごしている。落ち着ける場所があれば無理には元の場所には誘導しないようにしてそっと見守るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの物を持って来てもらってもいいことを伝えて安心した環境の中で生活している。職員は、特に清掃と整理整頓を常に心がけ、シーツの交換も毎日行って、清々しい気持ちで過ごせるようにしている。	クローゼットの中には使い慣れた整理ダンスが座っていたり、慣れ親しんだ時計が掛けてあったり、使い慣れた花瓶に花が活けてあったり自在で楽しい空間になっている。家族の写真が貼ってあったりもする。洗面槽とトイレが各室に備えられ、プライベートな空間はしっかり確保されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	全室にトイレと洗面所をつけて夜間でも迷うことなくトイレに行くことができるようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム ケアホーム匠

作成日 平成 24 年11月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		一人ひとりの人格を尊重した言動が統一されていないことがある。	人格を尊重した統一したケアに取り組む。	人格を尊重した統一したケアや言葉かけが出来るように、職員全体で職場の理念を振り返りながら確認していく。	今年度 来年度
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。